

12月24日 総務環境委員会（さはしあこ議員）

公募課長(国際展示場整備担当)の採用問題を調査 市長が公募前に採用意向を明かす？

12月26日に総務環境委員会が行われ、名古屋市の公募課長(任期付き課長級職員)の採用にかかる市長の関与について説明がありました。

最終選考で逆転採用

来々年4月から2年間の期限付き(最長5年)で採用する名古屋城再整備担当と国際展示場整備担当の2人が公募され、それぞれ23人と9人が応募。一次(書類選考)二次(副市長・局長面接)で各4人に絞られ、12月上旬の最終の市長面接で合格者を決めました。合格者は一次(50点満点)、二次(70点満点)、最終(80点満点)の合計点で決められましたが、展示場担当の合格者の順位は最終選考前は4位でした。

公募前に採用したい旨を伝えた市長

今回の合格者と市長は、公募の1年以上前に市議員を通じて知り合い、展示場団体からも紹介された人で、副市長にも引きあわせ、本人にも採用の意向をほのめかしたということです。市長はもともと公募なしに採用したかったといっていました(中日新聞)が、総務局は公募実施を求めたため公募することになりました。

当局は「公募は公正にやった」と説明し、市長以外の選考担当者のうち、副市長を除く市幹部は選考時に市長の意向を知らなかったとし、市長の意向に左右されないような方法で、選考は適切だった、と説明しています。

職員採用に口出しする自体が軽率

河村市長は「この人をとりたいたって公募になることはいくらでもある」といい、最終面接で逆転したことも「運営側にいたのは彼しかいなかった」とし、「公募が決まってからは何も言っていない」と報道されています。

総務環境委員会の審査で、さはし議員は市長の関与した状況を質問し「まだ公募がきまっていない段階で採用をほのめかすのは軽率」と指摘し「公平性が本当に担保されたのかも疑問になる。そもそも職員の採用に市長が口出しすること自体が軽率だ」と批判しました。

他の委員からは、減税の委員が「適切だった」と擁護したほかは、「市長が最終選考にかかわるより、他の方法もあったのではないか」「採用の決め手が実務経験では公募の方法が問題だ」「市長の意向だけですべてが決まることはおかしい」などと、選考方法や市長の姿勢を批判しました。



2014年12月18日 中日新聞

採用意向事前に明かす 河村市長、職員公募で

名古屋市の課長級任期付き職員の公募で、今月上旬に採用決定が発せられた。うち展示場整備担当の男性は、公募実施が決まる前に、河村たかし市長が個別に採用した意向を市幹部に伝えていたと分かった。河村市長は、展示場整備担当の公募は、面接などでの応募者審査した公募の選考は適切だったと認めるが、結果的に市長の意向で採用されたという男性が選ばれた経緯から、市幹部から「公募の公平性を疑われかねない」との声が出ている。

河村市長は、展示場整備担当として採用される男性は、総務局と展示場整備担当の市議員らから紹介された。市長は「公募の意向は、事前に市幹部に伝えていた」と認めた。河村市長は「公募の意向は、事前に市幹部に伝えていた」と認めた。河村市長は「公募の意向は、事前に市幹部に伝えていた」と認めた。

河村市長は「公募の意向は、事前に市幹部に伝えていた」と認めた。河村市長は「公募の意向は、事前に市幹部に伝えていた」と認めた。河村市長は「公募の意向は、事前に市幹部に伝えていた」と認めた。

河村市長は「この人をとりたいたって公募になることはいくらでもある」といい、最終面接で逆転したことも「運営側にいたのは彼しかいなかった」とし、「公募が決まってからは何も言っていない」と報道されています。

総務環境委員会の審査で、さはし議員は市長の関与した状況を質問し「まだ公募がきまっていない段階で採用をほのめかすのは軽率」と指摘し「公平性が本当に担保されたのかも疑問になる。そもそも職員の採用に市長が口出しすること自体が軽率だ」と批判しました。

公平性に懸念の声 職員公募 市議会委員会で審議

2014年12月27日 中日新聞

名古屋市の課長級任期付き職員の公募で、今月上旬に採用決定が発せられた。うち展示場整備担当の男性は、公募実施が決まる前に、河村たかし市長が個別に採用したい意向を市幹部に伝えていたと分かった。河村市長は、展示場整備担当の公募は、面接などでの応募者審査した公募の選考は適切だったと認めるが、結果的に市長の意向で採用されたという男性が選ばれた経緯から、市幹部から「公募の公平性を疑われかねない」との声が出ている。

河村市長は「公募の意向は、事前に市幹部に伝えていた」と認めた。河村市長は「公募の意向は、事前に市幹部に伝えていた」と認めた。河村市長は「公募の意向は、事前に市幹部に伝えていた」と認めた。

河村市長は「この人をとりたいたって公募になることはいくらでもある」といい、最終面接で逆転したことも「運営側にいたのは彼しかいなかった」とし、「公募が決まってからは何も言っていない」と報道されています。

総務環境委員会の審査で、さはし議員は市長の関与した状況を質問し「まだ公募がきまっていない段階で採用をほのめかすのは軽率」と指摘し「公平性が本当に担保されたのかも疑問になる。そもそも職員の採用に市長が口出しすること自体が軽率だ」と批判しました。